

種名	<p style="text-align: center;"><u>キ タ ノ メ ダ カ</u></p> <p style="text-align: center;"><u>Oryzias latipes</u></p> 
分類	メダカ科メダカ属
俗称	ウルメ(青森県の一部)など日本各地で五千以上の地方名がある。
形態的な特徴	全長は4cm ほどで野生のものは淡褐色をしているが、品種改良された色彩が黄色の「ヒメダカ」がペットショップなどで売られている。雌雄の違いは容易に判別でき、背鰭に切れ込みがある方がオスで、オスの方が尻鰭がやや大きい。外来種のカダヤシに似るが、尻鰭の形で容易に判別できる。
分布	ほぼ日本全土に分布するが北海道には近年になって移植による分布が確認された。
繁殖行動	産卵期は4～8月頃で、オスが背鰭と尻鰭を使ってメスの体を包み込むようにして産卵、放精を行う。その後メスは卵をぶら下げたまま泳ぎ、水草などに付着させる。ふ化した卵は成長が早く約半年で成熟する。寿命は1～2年。
生息場所	かつては平野部の池沼、水田周辺の水路、河川の淵など流れの緩やかなところに群泳する姿が見られ、童謡の「メダカの学校」で知られるように人里のごく身近なところに生息していた。
食性	エサは雑食性で動物・植物プランクトンや小さな落下昆虫を食べる。
生息環境への配慮事項	生息環境が平野部の細流や池沼などの人里に近い水域であったため、かつては最も身近な魚の一つであった。近年、都市開発や水路改修などが進むにつれ生息水域の多くが減少してしまっている。メダカと呼ばれ群泳している小型魚はモツゴやオイカワなどの稚魚であることも多い。本種の生息にはコンクリート護岸された水路では流速も早く、産卵場所もないために不向きである。最も本種の生息に適しているのは、昔ながらの素堀の用水路や自然護岸が保たれている池沼などであるため、水草の生える場所を残すような整備が望まれる。
その他	準絶滅危惧(新潟県RDB) 絶滅危惧Ⅱ類(環境省RDB) 近年、福井県の若狭湾中部以北の本州日本海側に分布するメダカは染色体や DNA の知見から別種と考えられるようになった。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	